

人間には
好きな人から
学ぶ本能がある

怠け者のこと



記事内容はわたし個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

ご意見などの宛先 horikawassw@gmail.com

ローレンツ博士は「動物が生まれて最初に見たものを親と認識する」＝すり込みという学習機能を発見、ノーベル医学・生理学賞を受賞しました。

この博士のことばに「人間は好きな人、尊敬する人から学ぶ機能を持って生まれている」というものがあります。

☆ 1

博士は動物行動学を提唱します。

働きアリを観察すると、およそ2割のアリは餌を運ばず、ブラブラしているだけだと気づきます。そこで、その2割を群れから取り出してみました。すると、残りの8割の中から、またまた2割がブラブラし始めた。また、取り出した2割の方は反対に、その8割が働きだしたというのです。

この続きがあって、怠け者アリたちは、アリの巣に外敵の襲撃などの非常事態があると、ただちに対応するらしいのです。

誰かを評価する時、その一面だけしか見ていないと間違った評価をしてしまう、自然界からそのような教えをもらった気持ちになります。

わたしたちの日常にも、当てはまらないでしょうか。

★ 2

自分の安全を守ってくれる人、安心を与えてくれる人のことを好きになるのは本能です。幼い子どもたちにとってのお母さんが、まさにこの安全・安心のベースです。そして保育士さんたちもまた、子どもに対して同じはたらきをしてくれています。

学ぶ＝まねるだと言います。そして博士のことばを借りると、子どもたちは大好きなお母さんや先生をまねしながら成長して行くと言えます。

『あいさつは心を開いて相手にせまる』そのように学びました。心を開かなければ、本当のあいさつとは言えません。形だけでもあいさつをすることは良い事です。できることなら心を相手に向けて声を掛けてはいかがでしょう。

子どもは、形をまねることから始めて、いつしかその心も受け継いで行きます。家族の間でのあいさつや、先生たちへのあいさつについても「この人は安全で安心できる人だよ」ということを教えてあげる、大事な評価の儀式なのかもしれませんね。

